

平成 29 年 6 月 5 日現在

機関番号：15101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25380930

研究課題名(和文) 治療フィデリティと目標設定は認知矯正療法の効果に影響を与えるか

研究課題名(英文) Do treatment fidelity and goal setting affect the outcome of cognitive remediation?

研究代表者

最上 多美子 (Mogami, Tamiko)

鳥取大学・医学(系)研究科(研究院)・教授

研究者番号：80368414

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：統合失調症などの精神疾患を持つ人に認知機能障害の改善を目的とする認知矯正療法を実施する際、治療フィデリティとリハビリテーション目標(例 就労、自立生活)の設定が、治療効果に重要であることが示唆された。研究者らは定期的に認知矯正療法実施者にスーパービジョンを行う中で、上記が確認された。治療フィデリティと中心である実施者の治療熟練度や、患者の治療へのコンプライアンスや、多様な認知課題の準備が重要であることが示された。認知矯正療法は包括的精神科リハビリテーション(例 精神科デイケア)や、作業所への通所などと併用されていると効果が上がるとされている。

研究成果の概要(英文)：It was suggested that treatment fidelity and setting of rehabilitation goal (e.g., work, independent living) is important in administering cognitive remediation to people with psychiatric illness such as schizophrenia. This was confirmed while present researchers provided supervision to who provide cognitive remediation. It was shown that treatment providers' skills, patients' treatment fidelity, and availability of various cognitive tasks were deemed to be the core of treatment fidelity and relevant. Cognitive remediation is known to be the most efficacious when combined with comprehensive psychiatric rehabilitation (i.e., psychiatric day care) and attendance at workshops. It was confirmed in this study that people with psychiatric illness receiving cognitive remediation attend psychiatric day care or workshop currently or in the near future.

研究分野：臨床心理

キーワード：認知機能 統合失調症 心理リハビリテーション 治療フィデリティ 精神疾患

1. 研究開始当初の背景

統合失調症など慢性の精神疾患をもつ人にとって地域での生活が困難な原因に認知機能障害がある。研究代表者はこれまで精神科領域で統合失調症をもつ人を対象にした認知機能リハビリテーションの一種である認知矯正療法(Neuropsychological and Educational Approach to Cognitive Remediation、または NEAR)の実施と普及に努めてきた。認知矯正療法のマニュアルの翻訳(中込・最上監訳、2008)や、認知矯正療法の実施者訓練ワークショップを行い、認知矯正療法の効果に影響を与える要因を測定するため内発的動機付け尺度の原板開発と日本語版標準化に関わった。研究分担者兼子と中込は統合失調症および認知機能障害や認知矯正療法研究に携わってきた。統合失調症を対象にした認知機能リハビリテーションは国内で比較的新たであることから、認知矯正療法の治療フィデリティを保ち、患者のリハビリテーション目標を明確にし、認知矯正療法と関連づけることが重要である。

2. 研究の目的

本研究では統合失調症をもつ患者を対象とした認知矯正療法の治療フィデリティを保ち、リハビリテーション目標を設定することが認知矯正療法の治療効果を高めるか否かを検討することを目的としている。精神科リハビリテーションにおいて治療者側の要因として治療フィデリティ、患者側の要因としてリハビリテーション目標に焦点化し、これが治療に肯定的な影響を与えることを検討し、国内では比較的新たな手法である認知矯正療法をより普及させることを目指す。

3. 研究の方法

研究代表者は複数の医療機関で実施されている認知矯正療法に定期的に助言・指導を行い、それを通じて、治療フィデリティが保たれていることを担保し、患者のリハビリテーション目標を確認して認知矯正療法と関連づけた。

4. 研究成果

- (1) 研究代表者は複数の医療機関で実施されている認知矯正療法に対して定期的に助言・指導を行い、治療フィデリティが保たれていることを担保した。助言・指導の内容は、使用される認知課題、新たな認知課題の患者への紹介の仕方、特定の認知機能プロフィールを持つ患者に対する認知課題の選定法、など多岐にわたった。
- (2) 研究者らは、認知矯正療法が実践されている場面を *in vivo* で視察し、実際の患者の認知課題への取り組み方やセッションの運営法を参考にした。認知課題を行う認知課題セッションと、認知機能の日常生活への般化を主に行う言語セッ

ションの両方を視察し、認知矯正療法への内発的動機付けの増加の仕方を検討した。

- (3) 研究者らは認知矯正療法の紹介やその効果に関する論文や学会での発表を行った。一般に認知機能リハビリテーションで対象になる「神経認知」だけでなくより広義で対象となる「社会認知」についても扱った。
- (4) 認知矯正療法の臨床家訓練に携わり、認知矯正療法に関する研究ホームページを通じて認知矯正療法の普及に努めた。
- (5) 精神疾患と認知機能障害に関する研究会の発足と維持に関わることで認知矯正療法の普及に努めた。本研究会では NEAR 以外の認知機能リハビリテーション法全般について扱った。
- (6) 精神疾患を持つ人の社会復帰には、認知機能障害の改善のみではなく、社会における精神疾患へのスティグマが関連していることが示されていることから、スティグマのあり方について検討した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

最上多美子、認知リハビリテーション NEAR について、精神科治療学、査読無、2015、30:1459-1464

Hagiya K, Sumiyoshi T, Kanie A, Pu S, Kaneko K, Mogami T, Oshima S, Niwa S, Nakagome K. Facial expression perception correlates with verbal working memory function in schizophrenia. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 査読有、2015、69:773-781

最上多美子、認知機能を改善する試み、こころの科学、査読無、2015、180:27-30

最上多美子、統合失調症における社会認知、精神科、査読無、2015、26:190-193

清水栄司・守口善也、今井正司、須藤千尋・最上多美子、ニューロサイエンスと認知行動療法の統合、認知療法研究、査読無、2014、7:144-153

Pu S, Nakagome K, Yamada T, Ikezawa S, Itakura M, Satake T, Ishida H, Nagata I, Mogami T, Kaneko K. New instrument

for measuring multiple domains of social cognition: Construct validity of the Social Cognition Screening Questionnaire (Japanese version), Psychiatry and Clinical Neurosciences、査読有、2014、68:701-711

〔学会発表〕(計10件)

最上多美子、ランチョンセミナー2 統合失調症の認知矯正療法、第12回日本統合失調症学会、2017年3月24日、米子コンベンションセンター(鳥取県米子市)

最上多美子、シンポジウム1 認知リハビリテーションの現状と課題、第12回日本統合失調症学会、2017年3月24日、米子コンベンションセンター(鳥取県米子市)

最上多美子、認知矯正療法 NEAR 治療者の訓練、第3回 CEPD 研究会、2017年3月11日、独立行政法人国立精神・神経医療研究センター(東京都小平市)

Mogami, T.、Neuropsychological Educational Approach to Cognitive Remediation、International Congress of Psychology、2016年7月29日、Pacifico Yokohama(神奈川県横浜市)

最上多美子、認知機能リハビリテーション、第9回うつ病リワーク研究会、2016年4月24日、京都リサーチパーク(京都府京都市)

蟹江絢子・細野正人・松田康裕・最上多美子、認知機能リハビリテーション、第2回 CEPD 研究会、2016年3月12日、独立行政法人国立精神・神経医療研究センター(東京都小平市)

最上多美子、精神疾患の認知機能リハビリテーション NEAR について、精神科・心療内科における地域連携を考えるかい、2015年5月23日、西宮神社会館(兵庫県西宮市)

Mogami, T.、On cognitive remediation NEAR、第1回 CEPD 研究会、2015年3月15日、独立行政法人国立精神・神経医療研究センター(東京都小平市)

Nakagome K, Ikezawa S, Mogami, T.、The challenges of training clinicians and readying clinics to provide CR in Japan, International Congress on Schizophrenia Research、2015年3月15日、The Broadmoor (Colorado, USA)

最上多美子、内発的動機付けと認知リハビリテーション、認知療法学会、2013年8月23日、帝京平成大学(東京都豊島区)

〔図書〕(計2件)

亀島信也・最上多美子・中込和幸・西元直美・高岸治人、福村出版、進化とこころの科学で学ぶ 人間関係の心理学、2016年、pp.172

最上多美子、医学書院、今日精神疾患治療指針第2版、2016年、pp.1029

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.geocities.jp/tamikomogami/mogami/TottoriUniv.html>

精神疾患の認知機能障害や、認知矯正療法、またこれらの研究成果が発表された機会を紹介している

認知矯正療法研修会開催 講師として参加

2014年7月、9月、2015年7月、2016年4月に計約100名の多職種(精神科医・看護師・精神保健福祉士・作業療法士・心理士・大学院生)を訓練している

認知矯正療法研修会で使用される訓練者用資料「認知矯正療法で行うための橋渡し(ブリッジング)セッション 30セッションのプラン」の翻訳を行った

認知矯正療法に関する助言・指導を実施 2013年～2016年にかけて、北海道大学附属病院、医療法人桜桂会犬山病院、長浜赤十字病院、養和会養和病院を対象に月1度～月2度実施している

2013年～2016年にかけて、研究者らが所属する鳥取大学を中心とした山陰地域で、約5件の医療機関(鳥取大学医学部附属病院・養和会養和病院・昌林会安来第一病院・明和会渡辺病院・西伯病院)を対象とし、3ヶ月に一度の「NEAR 地域ミーティング」で認知矯正療法に関する実施報告を聞き、助言や指導を行っている

認知矯正療法の患者の内発的動機付けを測定する内発的動機付け尺度に関して、大学・医療機関・研究者らの問い合わせに答え、場合により同尺度を譲渡した

6. 研究組織

(1)研究代表者

最上 多美子 (MOGAMI TAMIKO)

鳥取大学・大学院医学系研究科・教授

研究者番号：80368414

(2)研究分担者

兼子 幸一 (KANEKO KOICHI)

鳥取大学・大学院医学系研究科・教授

研究者番号：50194907

中込 和幸 (NAKAGOME KAZUYUKI)

独立行政法人国立精神・神経医療研究センタ

ー・所長

研究者番号：30198056